

J A 広報

いなかね

今金町農業協同組合

No. 4 2 0

平成21年10月



9月19日 稲刈り開始! (鈴岡地区 吉本富夫さん・辰也さん)

『ジャガロボ』で品質アップ!

〜今金男爵新たな取組み〜

近年、収穫時の省力化などのため今金町内においてもポテトハーベスターを使用する生産者が増えてきました。

今金町畑作部会は普及センターと協力して、ポテトハーベスターを使用したジャガイモ収穫作業時の衝撃による、打撲軽減のための調査を行っています。

打撲軽減に期待

収穫時、ジャガイモに一定以上の衝撃が加わると黒い斑点が発生することがありますが「打撲」と呼ばれますが、商品価値が低下してしまうため問題となっています。

調査には「ジャガロボ」という機械を使用。本体は球形で内部に衝撃を感知するセンサーを内蔵しています。ジャガイモと一緒に土に埋めて収穫し、ジャガイモに加えられる様々な衝撃が正確に記録され、衝撃が加わっ



た場所の特定も行います。

調査は9月8日八束東地区の境田哲哉さんの圃場から始まり、トラクターの速度を変えるなどしてジャガイモに加わる衝撃の比較が行われました。今後更に調査が行われ、衝撃の発生原因の把握と対応策の確立が期待されます。

① ジャガロボ(左)と、衝撃の値が表示される装置(右)



② これから収穫する畝にジャガロボを埋めます。



③ ハーベスター進む先に埋めたジャガロボが。



④ ジャガイモと一緒にコンベアが上がっていきます。



⑤ ここで、どの位の衝撃が加わったか即座に表示。



⑥ 収穫速度など、条件を変えて結果を比較。データを蓄積します。



札幌市で今金男爵を使った 「いまカレー」を販売!

今金町神丘出身 山崎 慎也さん



幌市在住の山崎慎也さん。札幌に就職後、STVラジオなどを通じて伝わる故郷の様子に元気をもらい、食に対する関心も高まったそうです。そして「今金町の元気と特産品の今金男爵を多くの人に発信したい」との思いから出展が実現しました。

店内には今金町内の様々な写真が展示され、手作り感溢れるあたたかな店構えで「いまカレー」は大盛況。店頭は沢山のお客さんで賑わっていました。

札幌市大通公園で9月18日〜10月4日まで「さつぽろオータムフェスト2009」が開催され、今金男爵ほか今金の食材をふんだんに使ったカレーライス『いまカレー』が期間中販売されました。このイベントは道内各地の旬の食材など美味しいものが集まる「北海道・札幌の食」をテーマにした秋を祝うお祭りです。

このイベントへの出展と「いまカレー」の販売を企画したのは、今金町神丘出身で現在は札



期待の新品種 「ゆめぴりか」 収穫開始

9月19日町内で稲刈りが始まりました。この日収穫を行ったのは鈴岡地区の吉本富夫さんと長男の辰也さん。約3ha作付けした「ゆめぴりか」を70aあまり収穫しました。

今年度は温湯消毒種子（農薬を使用せずお湯で消毒）を使った栽培の4年目の年となり、種子



を直接水田にまく「直播栽培」の試験も3年目の年でした。今金町の米農家は安全・安心への取組や、コスト低減・収益性の向上などを狙った取組などに意欲的にチャレンジしています。

今年度、期待の新品種「ゆめぴりか」は今金町では100haほど作付けされており、「ふつくりんこ」も好評で325haを作付け。「美味しい道南・北海道米」の消費者への更なる浸透に期待が高まります。

また、9月30日には今年最初の今金米の受入を記念して、セレモニータウンで開かれました。現地では町長の挨拶などが行われた後、祝い酒が生産者に贈られ操業の安全もあわせて祈願されました。



五稜郭で 今金をPR



9月12日五稜郭公園で「新幹線時代に向けた『道南の魅力』新発見・再発見フェア」が開かれました。このイベントは道南地域の魅力を伝えるとともに、新幹線の開業に向けた各町村の取組状況などを紹介する目的で行われました。当日は道南18市町村が集まり特産品などの試食・販売を実施。今金町からも今金男爵のイモ団子の試食や牛乳の試飲、うまいバイこだわり工房の味噌や紫蘇ジュースの販売が行われ来場した観光客に好評を博しました。

今金高原模範牧場 サイロ4基を撤去

9月28日今金高原模範牧場において、牧場のシンボルともなっていたサイロの撤去に際し、清祓いが執りおこなわれました。

完成から40年 近くが経過

今金高原模範牧場は昭和45年6月に建設が始まり47年11月完成。設置目的であった地域農業の安定的発展のため酪農畜産農家の経営規模の拡大に貢献して

きました。しかし現在ではその役目を終え、シンボルであった高さ20メートルにも及ぶサイロ4基がそのままの姿で残るのみとなっていました。建設から40年近くが経過し腐食など老朽化が進行。施設管理・危険防止のため撤去工事が行われることとなりました。

清祓いには細川信一組合長をはじめ外崎秀人今金町長など関係者が多数出席。出席者からは、

懐かしさと取り壊しを惜しむ声が数多く聞かれました。

今回のサイロ撤去によって、かつて東洋一と呼ばれた近代設備を誇った今金高原模範牧場の施設は完全に姿を消すこととなりますが、この施設が今金町における酪農の発展の礎となり大きな役割を果たしたことは言うまでもありません。



巨大なサイロを前に撤去作業の安全を祈願しました。

日進地区に模範牧場設置の背景

今金町の耕作地のほぼ60%を占める日進地区では全農家の約半数が酪農・畑作を営んでいたが、昭和40年代当時は経営規模が小さく生産性の低い零細酪農家が多かった。町は酪農振興に努めたが総体的にまだレベルが低く、昭和44年当時の1戸当たり飼養頭数は5.89頭(うち育成牛2頭)、農業所得は48万3千円という状況にあった。

3億6,300万円かけ牧場建設

そこで今金町は日進地区に民有地、町有地を主体とする330.9haを大規模な草地に改良する事業を計画。大規模草地改良事業地区としての調査が昭和43年に北海道開発局の手で開始され、44年には基礎調査と設計を終え、45年から農地開発機械公団が建設を開始した。3カ年計画で総事業費3億6,300万円を投入し昭和47年11月に日進地区共同利用模範牧場(今金高原模範牧場)が完成した。

育成牛預託が開始

酪農経営の規模を拡大するスケールメリットの発揮の期待を担い、乳用牛の育成と搾乳部門を分業化し、多頭化によって生産性を高めようというプランが実現に向けてスタート。

昭和48年の平均飼養頭数は1戸あたり7.08頭であったが、60年には21.69頭に増加。乳質も改善され、生乳生産量・販売高も飛躍的に伸び模範牧場は多頭化・生産性の向上に大きな役割を果たした。



当時の牧場全景



現在の牧場はサイロを残すのみ



9月17日農協事務所裏で今金消防署の指導のもと、消火訓練が実施されました。実際に消火器で炎を消す訓練も行われ、消防署職員の話に職員一同真剣な眼差しで聞き入りました。
 これからの季節空気が乾燥し火災が発生しやすくなります。皆さん火の元には十分注意しましょう。

火の用心!! 消火訓練 を実施

第10回 理事会報告

(平成21年9月16日)

◆報告事項

1. 内部審査結果報告について
2. JA共済コンプライアンス点検結果について

3. 食用馬鈴薯収量調査結果について
4. 種子馬鈴薯収量調査結果について
5. 北海道共進会の結果について
6. 農畜産物の販売状況及び生育状況について

◆監査報告

◆議決事項

- ・ 議案第1号 第2四半期監査に対する回答(案) について
 - ・ 議案第2号 平成21年度賦課金の減免について
 - ・ 議案第3号 平成21年産米のJA独自共計について
 - ・ 議案第4号 平成21年産米の概算払いについて
 - ・ 議案第5号 理事者との利益相反取引の追認について
 - ・ 議案第6号 理事者との利益相反取引の追認について
- ◆ 協議事項
1. JA北海道大会議案(案) に対する組織討議について

うちの野菜は財布にやさしい! つけて、つくって 家計力アップ!

自給・環境・ライフプランで豊かな暮らし

野菜たっぷりのやさしい食卓



家の光

人・JA・地域が元気

『家の光』定価(税込) /
 普通月号600円、
 付録月号(1・4・5・7・9月号)880円、
 家計簿付12月号980円

お申し込みはJAへ
 発行:JAグループ(社)家の光協会



紙面を刷新・さらに充実
 役立つ・楽しい・読みやすい!!

●お申し込みは **JA** へ
 毎日発行 定価1か月2,450円



食農情報をリードする

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

[http:// www.nougyou-shimbun.ne.jp](http://www.nougyou-shimbun.ne.jp)

● JA 今金町 420号 ●
 発行/今金町農業協同組合 編集/管理課

平成21年10月1日発行
 印刷/株 三誠社